



**救いたい 1秒を争う 救える命**

大きなけがや深刻な病状で、すぐに手当てが必要な人を早く安全に医療機関へ運ぶ救急車。コロナ禍の今、市消防本部にある救急車4台が全て出動するケースが多発しています。すぐに救急車が出動しないと、救えなくなってしまう1秒を争う「救える命」。あなたが呼ぼうとしたその救急車、本当に今すぐ必要ですか。(続きは2ページへ)

| CONTENTS                      | ページ |
|-------------------------------|-----|
| 救急車の適正利用にご協力をほかさポーツ荣誉賞、ゆるり旅ほか | 2-3 |
| お知らせ掲示板                       | 4-5 |
| 人権・同和教育シリーズ                   | 6-7 |
|                               | 8   |

人権作文

市内の小中学生が書いた人権作文を紹介します。



思いやりの心

大和中学校2年  
松藤 龍希

僕は、日本人とウクライナ人とのハーフです。僕に初めて会った人は、僕が話しかけるまで待つか、「どこ出身?」と聞いてくることが多いです。また、自分より年下の子たちから「ハロー!返事は?」とからかわれたこともあります。まだ幼すぎて気を使えないのは分かりますが、日本人同士でも、「こんにちは。返事は?」と聞くことはしないと思います。「自分と違う人のことはからかっていい」と思っているのでしょうか。決してそのようなことは許されません。日本人でも、そうでなくても、何も違いはありません。誰に対しても、思いやりの心を持って接することが大切だと思います。

今、ロシアがウクライナに軍事侵攻をしています。僕はキリスト教徒で、1カ月に1回教会に通っています。教会には外国人がたくさん集まっています。侵攻が始まる前、僕は教会に来ていたロシア人の女の子と仲良しでした。しかし、この侵攻が始まった時からその子が一度も来ていません。僕たちのことが嫌いになったのか。気まずくて来れないのか。いくら考えても分かりません。その子が学校でいじめられていないか、今も心配しています。

ロシア人が決して悪くありません。軍事侵攻を始めた人たちが悪いのです。ロシア軍で侵攻をしている人たちの中にも、戦わなければならぬから戦っている人がいるはずですよ。ウクライナ人が同情される一方で、

ロシア人が誹謗中傷を受けています。この侵攻が人々を分断させているのです。私たちは分断するのではなく、共存すべきです。戦争は敵をつくらなければ起きません。戦争は、本当に多くの人たちの人権を奪います。人は、自分と違ったものを遠ざけようと、無意識のうちにいじめや差別を生み出します。しかし、目の色、髪の色、肌の色は違って、私たちは人間なので、自分自身を愛し、他の人を思いやることこそ、私たちに必要なことだと思います。

僕自身、コンプレックスを抱えていたこともありましたが、もう気にしないことにしました。自分は自分。世界に一人だけの自分。これからは、みんなと共に過

「先生からの一言」  
身近な生活の中で感じたこと、教会の友達への想い、そして今も続いている軍事侵攻への鋭い主張。自らの経験をおまえて、ありのままに語ってくれました。何度読んでも、龍希さんの優しさが伝わってきます。

ごしながら、僕が幸せを分けていきたいと思いました。外国人をからかっている人へ。日本語が分からない外国人は、ニヤニヤしながら話しかけられると、不安になります。ただ一言、優しい気持ちでことばを交わし、ニコッとするだけでお互い、いい気持ちになりますよ。